

新評論

2021

1

No.309

発行所 © 新評論 2021年
〒169-0051 新宿区西早稲田3-16-28
TEL03-3202-7391 FAX03-3202-5832
http://www.shinhyoron.co.jp
e-mail: shrn@shinhyoron.co.jp
振替 00160-1-113487 価格税抜

The Book of Mistakes



原書表紙

corinna luyken

子どもはみんなアーティスト!想像力と絵を描く喜びを
やさしく温かくときはなつ、現代版『てん』日本上陸!

まちがいなんて ないよ

コリーナ・ルウケン(文・絵)/島津やよい 訳

◆ジャンル:4~8歳向け絵本/想像力の養成/美術教育

お絵描き、苦手です。最大の原因は、
学校時代に写生の授業で「デッサンがおかしい」「よく見て描きなさい、木はそんなかたちしてないでしょ」なんて先生に
言われて、意気阻喪した経験にあります。
作品の巧拙・優劣を「評価」されるたびに、この世には「ただしい描き方」があ
って、じぶんの絵は「まちがい」なのだ
と、気持ちがちぢこまっていききました。
恥ずかしながら、大学で美術史を聴講
してはじめて、表現や創作とはこれほど
自由なものなのかと驚きました。古今の
美術作品や画家の仕事の内実に早くから
ふれていれば、わたしももう少し絵心を
もてていたかもしれません。

ほんとうは、絵には「ただしい描き方」
も「まちがい」もない。見えたまま、心に
うつしだされたままに描けばいい。デッ
サンなどの技術はあとで習得できますが、
感情や想像力を解放して自由に描く感覚
は、幼いころに抑圧されると容易にはと
りもどせません。それが後年、精神の貧
困となつてあらわれもします。美術教育
とは本来、情操教育であるべきなのです。

本書はこんなふうに語りかけてきます
——デッサンだのプロポーションだのは
気にしないで!あなたはいま「まちがっ
た、描き損じちゃった」と思っただろ
うけど、そのまま描きすすめてみて。どん
な風景が見えてくる?——と。作者は学
校で絵の手ほどきをするなかで、子ども
たちがみずからを解放するよう励ませば、
どんな「描き損じ」もすばらしい作品に
発展するのをまのあたりにし、それにヒ
ントをえて本書を完成させました。やわ
らかく繊細な描線、漆黒のインクと温か
なパステルカラーの美しいコントラスト
が、子どもはもちろん大人をも表現・創
作へといざないます。ピーター・レイノ
ルズの古典『てん』から二〇年、図画ぎ
らいの心を解放する新たな名作の誕生で
す。『てん』同様、美術だけでなくあらゆる
分野で求められる想像力・創造力を養
うための副教材としても最適です。

(コリーナ・ルウケン)

ISBN978-4-7948-1172-1 1月下旬刊

A4変型(210×254mm)上製

オールカラー五四頁 予一八〇〇円

作者 Corinna LUYKEN 新進気鋭の絵本作家。1978年サンフランシスコ生まれ、ミドルベリー大学卒。
『わたしのこころ(My Heart)』(2019年、未邦訳)は『ニューヨーク・タイムズ』ベストセラー。作品はいずれも
子どもの感性や想像力を豊かに育む副教材として全米の教育現場で採用されている。本書が初邦訳。



本書挿画より

だれもが「読むこと」が好き＝「読書家の文化」に染まった教室を実現するために。いまずぐ始められるノウハウ満載!

読む文化をハックする

読むことを嫌いにする国語の授業に意味があるのか?

ジェラルド・ドーソン /
山元隆春・中井悠加・吉田新一郎 訳

◆ジャンル:教育実践/アクティブ・ラーニング

いま全国の学校の全生徒が「読むこと」が好きであるなら、本書の存在理由はありません。しかし、残念なことに現実には正反対で、教室での経験から「読むこと」が嫌いになってしまいう子どもがあとを絶ちません。この事情は日本でも米国でも変わらないようです。

本書の副題(原題)は、直訳すれば「どんな教室も読書家の文化(a culture of readers)に染める五つの方法」です。教室が「読書家の文化」に染まる、つまりだれもが読むことを楽しめるようになるのを阻んでいるのは何か。著者はその主な要因として、教師側の次の三つの姿勢を挙げています。①教科書を一通り終えることにはばかり汲々としている、②文章に対する生徒一人ひとりの反応に目を向けていない、③教室での話し合いや、様々な情報源から集めた事実や考えをコピーする力ばかりを重視している。本書は、教師がこのような事態を「ハックする」(修繕する)ことによって、教室全体に「読む文化」が浸透すると主張しています。

人間は自分の好きなことには熱中し、いくら必要だと言われてもおもしろくないと思うことは敬遠するものです。熱心に読むことを推奨しても、生徒自身がつ

まらいと感じれば続くものではありません。本書には、「課題として与えられたわけではないが、おもしろくてひたすら読みふけてしまった」といった経験を増やすための具体的なヒントがたくさん詰まっています。デジタル情報と紙の本の両方を駆使しつつ、子どもが自発的に読みたいと思うような本の見つけ方、環境の作り方などがわかりやすく解説されています。

読むことが好きな生徒を一人でも多く育てていくことが、国語教育、ひいては学校教育全体が直面する多くの問題を解決するという著者の強い信念に、訳者一同も心から賛同し、本書を全国の教育関係者の方々におすすめします。

(山元隆春 広島大学大学院教授)

ISBN978-4-7948-1171-4 1月初旬刊

四六並製 一九二頁 一八〇〇円

生徒指導をハックする 二四〇〇円

(育ちあう「Mindマイン」をつくる「関係修復アプローチ」)
N・メイナード・B・ウィンスタイン / 高見佐知・吉田新一郎 訳

教科書をハックする 二四〇〇円

(21世紀の学びを実現する授業のつくり方)
R・C・レント / 白鳥徳義・吉田新一郎 訳

宿題をハックする 二四〇〇円

(学校外でも学びを促進する10の方法)
S・サックシュタイン・C・ハミルトン / 高橋裕人・吉田新一郎 訳

好評刊

著者 Gerard DAWSON アメリカ・ニュージャージー州ハイットタウンの高等学校で国語とジャーナリズムを教える。学びに革命を起こすテクノロジーの力を信じ、教師向けにオンライン講座を提供する他、YouTubeやTwitter(@gerarddawson3)でも積極的に情報を発信している。



みんなで力をあわせて本のディスプレイを考えてみよう。学校図書館がもっと楽しくなる！（本書挿入写真より）

学校図書館のポテンシャルを最大限に活かす実践的ハック集。子どもたちとともに楽しみながら学びのタービンを回そう！

学校図書館をハックする

学びのハブになるための10の方法

クリスティーナ・A・ホルズワイス＋ストーニー・エヴァンス
松田ユリ子・桑田てるみ・吉田新一郎 訳

◆ジャンル：図書館の活性化／図書館情報学

学校図書館を外から見るとどんな感じかなー、といつも考えます。人によっては、もしかしたら巨大なガラスの広口瓶みたいなイメージかもしれないなあ。「分厚いガラスの内側がなぜかいつも曇っていて、外からは中がぼんやりとしか見えない」。ふむふむ。「中に入るためには梯子を登って蓋を取らなくちゃならない」。なるほど。いつも曇っているのは、閉め切りがちな上に、その内部で働いている人の熱量が有りすぎて、外部との温度差によってガラス面に結露を生じてしまふからなのかも？曇りガラス、梯子、蓋というバリアのイメージは、めちゃくちゃ敷居が高いということの反映？

とにかく、こんなイメージを壊さないと！実際の学校図書館は全然違うんだから！でも「実際」の「本当」が伝わらない。「これほど」や「あれだけ」の仕事が届かない。じゃあどうする？この問いに、明快かつパワフルかつポジティブに答えてくれるのが、本書です。学校図書館の内にこもったエネルギーを、学校全体に、そしてより広い「学びのコミュニティ」に放出して、子どもの興味を掻き立てて学びを促すタービンを回すこ

とに使いませんか？——と、あの手この手（ハック）を繰り出して誘うのです。思い立ったらすぐに試せるハックが満載なのも、やる気をそそります。楽しみながら取り組んだ結果として、曇っていたガラスがクリアになって活動が良く見えるようになれば、誰でも中に入るのが当たり前になり、バリアもいずれ消滅するに違いありません。

しかも、とても実用的ながら、本書は単なる実践者のためのハウツー本にはとどまりません。子どもの学びにとって学校図書館のポテンシャルがいかに大きいかを具体的にを見せてくれるショーケースでもあります。つまり、学校教育だけでなく、自分の頭で考えられる未来の市民の育成に関わるすべての人にとって、必読の本なのです。（松田ユリ子 神奈川県立高等学校図書館司書）

ISBN978-4-7948-1174-5

1月中旬刊

四六並製 二六四頁 予二四〇〇円

成績をハックする 二〇〇〇円

（評価を学びにいかす10の方法）
S・サックシュタイン／高橋裕人・吉田新一郎 訳

好評刊 「学校」をハックする 二〇〇〇円

（大変な教師の仕事を変える10の方法）
M・バーンス・J・ゴッザレス

小岩井博・吉田新一郎 訳

著者 Kristina A. HOLZWEISS 学校図書館司書、教育工学スペシャリスト、中学校英語教師。教育開発NPO「LONG ISLAND LEADS」代表。Stony EVANS アーカンサス州レイクサイド高校教員・図書館司書。「School Library Connection」誌にコラムを連載中。



互いに問いかけ合う平等な会話＝等話こそが、私たちの共生社会を育む。「駄菓子屋楽校」の著者が提起する「会話の人間学」。

とうわ 等話

平等な会話が、あなたの人生と社会を変える

コロナ禍の影響で、距離を保ちながら行われた「等話」の実践研修会。人と人との関係性はすべて、「自己完結せず、長く話さず、相手の意見に耳を傾け、互いに問いかけ合う」平等な会話によって拓かれる。(令和2年度講座企画研修会基礎編、仙台市生涯学習支援センター、2020年6月12日)

松田道雄

◆ジャンル:人間関係論・生涯教育

新型コロナウイルスと共生する日々において人と会話する機会がめっきり減っている中、本書は、あらためて会話そのものが持つ本質的な意義について考え、読者に問いかけます。

筆者はかつて、高齢者と子どもが織りなす駄菓子屋空間の研究から、大人が見落としていたいくつもの価値を再発見し、その意義を現代社会に問いかけました(『駄菓子屋楽校』)。なかでも最も本質的な再発見は、「人は人とともに生きており、お互いの関係性は平等である」という極めてシンプルな、かつ最も壊れやすい価値についてでした。現在のコロナ禍が気づかせてくれるのは、その壊れやすい「共生の関係」「平等なる関係」は「平等な会話」によって築かれ、育まれるということかもしれません。本書はこの「平等な会話」、略して「等話」の考え方や実践を通して、自己主張や「傾聴」からだけでなく、「互いに問いかけ合う」日常会話が生み出す人と人との間のあり方、地域社会づくりのあり方を照らし出します。人類は、文字が発明されるはるか以前より、会話によって共に生きてきました。ところが、個人の権利が確立された近代

以降現在まで、学校教育で「会話」の意義やそのあり方が重視されてきたことはありません。いかに正當な主張であれ、いかに崇高な精神あれ、「人とともに生きる平等なる関係」を忘れた学びは、自己も他者も、そして社会をも不幸にします。それゆえ、共生と協力のための「等話」の学びがすべての学びの基本型であると考える筆者は、大学や各地の生涯学習の現場で、「等話」の具体的な実践方法を「5つの心がけ」として提起する活動を続けています。本書は、会話の意義を歴史・社会的にさまざまな視点から検証し、等話の実験(オンライン会話交流を含む)に参加した大学生やシニア世代の「振り返り作文」も紹介しつつ、これからの少子高齢社会と私たち自身のあり方を考えます。(まつだ・みちお)

ISBN978-4-7948-1173-8 1月刊
四六並製 予二二二頁 予二〇〇〇円

関係性は

もう一つの世界をつくり出す

(人間活動ノート) 一八〇〇円

輪読会版 駄菓子屋楽校

好評刊・同著者の本
「あなたのあの頃、読んで語って未来をみつめて」
二七〇〇円

著者 1961年生まれ。中学教師を務めた後、現在、^高尚綱学院大学教授(生涯学習、地域づくり支援)。「駄菓子屋楽校」(2002年、輪読会版2008年)、「関係性はもう一つの世界をつくり出す」(2009年)など。だがしや楽校、66将棋、こくばん七夕ノートなど発案。

76億人が暮らす「一軒家」

末吉正三

〔地球で起きてきていることにはすべて理由がある〕 76億の「私」の力を結集するための警鐘と呼びかけの書。



野生動物のためのソーシャルディスタンス

戸川久美

〔イリオモテヤマネコ、トラ、ゾウの保護活動に取り組むNPO〕 傷ついた自然を癒すための「心の距離」とは。



ラテンアメリカ地球規模課題の実践

畑恵子・浦部浩之編

核軍縮、環境保全、人権擁護、生活の質の向上、市民運動の国際連帯…、貧困・差別・暴力なきグローバル世界を築くために、世界の市民はラテンアメリカから何を学ぶべきか。



カンボジア自転車プロジェクト

安田勝也

〔オッサンが国際支援をはじめた！〕 「できることからやってみる」。40代からの国際支援事始め、笑いと涙の顛末記。



退屈な授業をぶっ飛ばせ！

マーサ・ラッシュユ／長崎政浩 訳
吉田新一郎 訳

〔学びに熱中する教室〕 教室の変革を映画のように生き生きと描く教育ドキュメント。幅広く応用できるヒント満載！



生徒指導をハックする

N・メイナード+B・ウィンスタイン／高見佐知・中井悠加・吉田新一郎 訳

〔育ちあう「ミニミティ」をつくる〕 関係修復のアプローチ。真の成長に資する指導のための最新指針を詳説。



アナキスト本をよむ

栗原康

書評とは文章の大冒険だ！未収録の書評・エッセイ47本でたどる現代最狂の文人、生成の軌跡。



猫と和む

久下貴史作品集3

久下貴史 画／シヤバンアーティスト株式会社 文
マンハッタナーのイメージから一転の嬉しいサプライズ！ほっこり「和」の作品と充実の解説で楽しいリモート旅。



嶋守さやか 『ことほ 寿ぐひと』——原発、住民運動、死の語り

生死の現場に耳傾け

■「記者の1冊」『東京新聞』2020年11月14日

福祉社会学が専門の大学教授である著者が、看護師に会って死についての体験を聞いて



くまざわ書店武蔵小金井北口店での展開の様子。「原発立地地域や原発労働供給地、病院などにおいて、生命と生活に根ざした営みを続けている人びとに密着。生死の語りが繰り返される日々の中、対立と分断を超えて信頼し、助け合い、共感の地域社会を共に築く姿を綴る」(同店Twitterより)

ている。安らかに逝きたいと悟っていた女性の死に際、息子が初めて病院に来て延命を懇願した。心臓マッサージ中、女性は「もうやめて」と訴えている。ある看護師長は、死に直面して動揺し手が震える新人に、言葉をかけてあげられなかったことを後悔した。痛ましい「生死の現場」に著者が耳を傾けたのは、死の臨床に少しでも近づくためだ

った。現状では、医療職でない社会学者が人の死に立ち会うことは難しい。これまで高齢者福祉や孤独死をテーマに本を出したが「死がきれいすぎる」「本では誰も死んでいない」との声があり、心に刺さっていたという。専門家として、延命措置や臓器移植などをめぐる課題も投げかける。そこに看護師のリアルな「死の語り」があることで切実さが伝わってくる。

また反原発運動に参加する市民や、東京・山谷の生活支援グループへの取材も敢行。著者は彼らを、民衆の幸福に寄与する人、という意味を込めて「寿ぐひと」と呼んで尊敬する。(栗原淳)

ことほ 寿ぐひと

ドクターファンタスティコ★嶋守さやか
〔原発、住民運動、死の語り〕 対立と分断を超えて信頼・助け合い・共感の地域社会を築くための備忘録
四六並製 三三〇頁 二四〇〇円

WAN「女の本屋」紹介
ISBN978-4-7948-1161-5



本を売る

書店で働くことの楽しみ

書店で働くことの楽しみとはなんだろうか。出版業界は年々衰退していると言われて久しく、その中でも書店員とは体力仕事で休みも少なく大変な仕事だと思う。それでも書店員を続ける多くの人のとってやはり書店には独特の楽しさがあり、一度それを体験するとなかなか抜けられない。

その楽しさの中身は人によってそれぞれだとは思いますが、自分にとってそれは棚づくりだと思う。書店の棚は、日々入荷した本が棚に補充されて保たれているが、単に補充するだけでは棚は荒れていく。棚を綺麗に保つには、日々少しずつ棚の並びをメンテナンスしなければならぬ。あるいはまとまった時間をとって並びを見直す作業をする。そうした棚づくりの作業はとても時間がかかる。棚を見直しているとは結局一冊一冊が何の本なのかを確認していくことになるし、そこから疑問点が次々と出てきて、そのジャンルについての入門書などを手に取り調べることが必要になるからだ。確かに骨が折れる大変な作業ではあるのだが、

作業が進むとそれはなんとも楽しいものに変わっていく。なぜこの本はこの隣にあるのか、この著者の経歴はどんなものか、どの国のいつの年代か、このテーマはどのテーマと関連づけるかなどなど判断基準は様々だ。書店の規模によってもその分類は変わるだろう。その中から自分なりの分類方法を決めて整理していくと、棚は見違えるように綺麗になるし、棚への理解も深まっている。それが完成した時の爽快さたるや。理解し、整理できている棚というのは触っていてとても楽しいものだ。問題はここまでの時間をとるのはなかなか難しいということだ。やればすぐに売上が上がるなどの即効性があるわけでもない。日々の業務に忙殺されているとなかなか取り掛かることができない。しかし、自戒も込めて書いているが、書店の仕事の楽しみが詰まったこの作業は、同時に書店業の骨子でもあると思う。売れる新刊が出ない時に書店を支えるのは、よく整理し耕された棚を見て、買ったださるお客様だ。なんとか時間を見つけて進めて実践していきたい。

ジュンク堂書店池袋本店

井手ゆみこ

本誌表示価格はすべて税抜です。

書評日誌(11・3~11・23)

◎書評 ◎紹介 ◎関連記事

- 11・3 ◎南信州新聞「飯田線ものがたり」(「第2回伊那VALLEY映画祭」案内)
- 11・9 ◎北欧カルチャーマガジン Fika「『ニルスのふしぎな旅』と日本人」(矢部太郎氏・著者対談)
- 11・10 ◎WAN「女の本屋」『寿ぐひ

- と』(著者寄稿)
- 11・14 ◎東京新聞「寿ぐひと」(栗原淳) ▶P.6再録
- 11・15 ◎中日新聞「寿ぐひと」(栗原淳) ▶同上
- 11・23 ◎YAMAYA (ヤマケイオンライン)「天岩戸神話を歩く」(太田昭彦)

矢部太郎氏・著者対談
(fika.cinra.net)
ISBN978-4-7948-1106-6



「ニルスのふしぎな旅」と日本人
村山朝子

「スウェーデンの地理読本は何を伝えてきたのか」初邦訳から一〇〇年、世界中で愛されてきた魅力に迫る。四六上製三〇〇頁、八頁綴、二五〇〇円

「ヤマケイオンライン」書評
ISBN978-4-7948-1158-5



「高千穂から戸隠へ」神話の謎を追い、地元の暮らし・風習・文化に触れながら往く、徒歩にこだわった旅案内。四六並製 二五六頁 二二〇〇円

あまのいわと
天岩戸神話を歩く
みやのゆきこ

本を読む

野生動物のためのソーシャルディスタンス

最近では日本でも野生動物と人間の生活圏が接近しすぎて獣害として問題視されることが増えているが、その本質・原因は人間側にある。動物が一方的に悪者にされるケースなどを見ると大きな疑問を感じます。その点で本書は大変参考になりました。

(横手市 梁田信吉)

教科書をハックする

「教科書通りの発言だね」など、

「教科書」という言葉には一般にあまりよいイメージはありません。決まったことを決まった通りに教える・教わる。みんなそれにうんざりしています。本書では、生徒一人一人の興味・関心に合わせてテキストを準備する方法が紹介されています。生徒にびたりはまるテキストは、教科書の中にあるとは限りません。GIGAスクール構想(義務教育課程でPCを一人一台支給し高速ネットワーク環境などを整備する文科省の五年計画)が進行中の今、教科書の中だけに学びを求める時代は終わりました。

した。教師として、教科書絶対主義を脱するための指針となる本でした。

(長岡市 教員 上山晃平 25歳)

退屈な授業をぶっ飛ばせ!

生徒たちがより主体的にのびのびと学ぶための工夫について、例示も豊富で、また「できることから」というメッセージに力をもらえる一冊でした。まえがきの「教師自身が授業をコントロールできることが一種の快感になる」という指摘はとても重要と思います。

(北海道 教員 菅野真文 25歳)

好評刊

オーデュボンの鳥

(「アメリカの鳥類」セレクトジョン・ジョン・シエームス・オーデュボン 二〇〇〇円)

性的虐待を犯した少年たち

(「ボイススクリーン」の治癒記録) Aニューマン・O・リス・ヘリイ+Bスウェンソン 二五〇〇円)

今だからこそ

「子ども発」の学びを

(「バーチャルからリアルに」 行田修彦・船越勝編著 二六〇〇円)

野蛮への恐怖、文明への怨念

(「文明の衝突論を超えて」文化の出会い」を考える) T・トドロフ/大谷尚文・小野 潮訳 三三〇〇円)

編集部から

「人類というとてもおおきな家族」をテーマにした絵本「ぼくはにんげん」、お陰様で大きな反響をいただいています。そして今回、再び吉田新一郎氏のご推奨です。美しい絵本を出すことになりました。シンプルで楽しいストーリーと繊細で美しい絵が、子ども・大人を問わず「ただしさ」にがんじがらめになった現代人の心をほぐしてくれます。新刊「まちがいないてないよ」ぜひご一読を▼出すたびに教員の方々から絶賛をいただく吉田氏プロデュースの教育書。教育政策が迷走し続ける中、現場の先生方が良質な教育書を切実に求めていることがわかります。新年早々刊行の二点とも、教育問題の根底にあるリテラシーの軽視に警鐘を鳴らし、「読む文化」の重要性を説く内容▼「話す文化」はもっと大事。「駄菓子屋楽校」の著者、松田道雄氏の「新刊」等話」もご併読を。

営業部から

▼直近3ヶ月(2020年9月、11月)弊社の書籍売上ベスト15をご紹介します。

- ①フィンランド公共図書館
- ②カンボジア自転車プロジェクト
- ③猫と和む
- ④ぼくは にんげん
- ⑤寿ぐひと
- ⑥たった一つを変えるだけ
- ⑦スウェーデンの
小学校社会科の教科書を読む
- ⑧地球に降り立つ
- ⑨退屈な授業をぶっ飛ばせ!
- ⑩オーデュボンの鳥
- ⑪「おさるのジョージ」を教室で実現
- ⑫猫たちとニューヨーク散歩
- ⑬虚構の「近代」
- ⑭野生動物のための
ソーシャルディスタンス
- ⑮メキシコ2018〜19年

SBC(新評論ブックスクラブ)のご案内

会員は送料無料!各種特典あり!お申し込みを!

当クラブ(一九九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活動内容をご紹介する月刊PR誌「新評論」を定期的にこの送付しております。入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートハガキを累計5枚お送りいただくことに、全商品の中からご希望の本を1冊無料進呈する特典もございます。ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メール、またはハガキにてお名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。折り返し、SBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。